

[平成12年 決算審査特別委員会(企業会計)]-[09月25日-06号]-P.124

◆青山圭一 委員 通告をしておりました2点につきまして、一括で質問させていただきます。

初めに、建設局長に、登戸ポンプ場についてでございます。平成11年度川崎市下水道事業損益計算書の中で営業費用のうち、ポンプ事業費が約4億4,000万円と計上されております。この費用のうち、多摩区登戸ポンプ場の運転経費は約530万円であります。登戸ポンプ場の保守点検の費用もこの中に含まれていると思いますが、その費用、そしてどのような点検をいつ行ったのか伺います。

また、関連いたしまして、今月9月12日の大雨により、この登戸ポンプ場近辺において一部道路が冠水し、マンション等が床上浸水するなどの被害が発生をいたしました。当日、私もすぐに現地を視察させていただきましたが、大変にひどい状況でございました。地元住民の方からは、当初、ポンプは作動していなかったとの声を聞いております。ポンプは適正に作動したのか、あるいは作動していなかったとすると、何が原因であったのか。さらに、登戸ポンプ場はふだんは無人であり、何か事態が発生すると、等々力水処理センターから人が駆けつける体制をとっているようですが、この日は担当者が等々力水処理センターから登戸ポンプ場まで来るのに要した時間はどのくらいであったのか、あわせて伺います。

次に、交通局長に伺います。平成11年度川崎市交通事業貸借対照表において、資産の部に繰延勘定として退職給与金が計上されております。通常、退職給与金の会計処理は引当金として負債の部に計上されますが、なぜこのような会計処理をされたのか伺います。

次に、車いすを使用されている方や高齢者などが利用しやすいノンステップバスやスロープ板つきワンステップバス及び圧縮天然ガス、CNGを燃料とするノンステップバスの整備状況と今後の計画についても伺います。

今後の整備計画については、他の委員との質疑で理解をいたしましたので、答弁は結構です。

また、バスにおいて、アイドリングをストップしているときにも冷房は切れないバックアップシステムの整備をされているようですが、これまでの取り組み状況と今後の計画についても伺います。

さらに、交通事業報告書において、「公営企業として経済性を発揮するため、効率的な事業運営に鋭意努力してまいりました」、こうありますが、どのような努力をされてきたのか具体的にお示しください。以上です。

◎引野憲治 建設局長 登戸ポンプ場についてのご質問でございますが、保守点検につきましては、ポンプ制御装置の点検を年2回、委託により実施しております。費用は約63万5,000円を要しております。

次に、登戸ポンプ場が正常に運転できなかった原因についてでございますが、現在、制御異常や故障等を含めて急ぎ調査を進めているところでございます。また当日、登戸ポンプ場まで職員が到着に要した時間でございますが、途中、道路冠水による交通渋滞のため、約50分程度を要しております。以上でございます。

◎飯田嘉雄 交通局長 退職給与金の会計処理等についてのご質問でございますが、初めに退職給与金の会計処理についてでございますが、交通局の退職者は平成11年から平成15年までの5年間でピークとなり、この間の退職給与金が急増するため、収益と費用を対応させる企業会計には各年度の退職給与金の平準化が求められておりますことから、地方公営企業法施行令第26条第2項の規定により、退職給与金の一部につきまして繰延勘定に計上する処理をしたものでございます。

次に、低公害バス等の整備状況についてでございますが、現在の導入状況といたしましては、ノンステップバスが6両、スロープ板つきワンステップバスが33両、CNGバスが7両でございます。また、バスクーラーバックアップシステムにつきましては、5両に装備して効果及び耐久性等についてテスト中でございますので、その結果を見きわめながら導入について検討してまいります。

次に、事業運営の努力についてでございますが、1つには、バスの信頼を確保する観点から、走行環境の改善に向け、関係機関に対し、引き続き働きかけていくこと。2つには、人と環境にやさしいバスの観点から、高齢者を初め障害を持つ方々にも利用しやすいノンステップバスなどの福祉対応型車両やCNGバス等の低公害型車両を引き続き整備していくこと。3つには、バスサービスの向上の観点から、ダイヤや運行時間帯、バス情報の高度化、新たな料金制度などを検討し、利用者のニーズに合った多様なサービスを提供することなど、今後とも努力をしてまいります。以上でございます。

◆青山圭一 委員 それぞれご答弁ありがとうございました。

それでは、再質問させていただきます。まず、建設局長にでございますが、登戸のポンプ場が正常に運転できなかったため、被害をこうむった方たちに対する補償等についてはどのように考えているのか。また、事故が発生してから登戸ポンプ場までに要した時間が約50分とのことですが、とても迅速な対応とは言えないと思います。登戸ポンプ場近くには多摩土木事務所、多摩区役所、多摩消防署等もあります。こうしたところで対応ができていれば、被害は最小限で済んだのではないかと思います。今後の対応について伺います。

続きまして、交通局長に再質問でございますが、退職給与金等について再度質問させていただきます。先ほど、退職給与金の会計処理は地方公営企業法にのっとりた処理をされているということでございますが、昨年度までの決算書には負債の部において退職給与引当金は計上されておらず、今年度初めて資産の部における繰延勘定として4億4,000万円余の退職給与金を計上し、後年度に費用化を図っていく、こうした処理になっているわけですが、果たしてこのような方法で適正な判断を決算書から読み取ることができるのか、疑問であります。

民間企業が通常実施をしているように、引当金を每期計上する会計処理方法が本来の姿であり、適正な会計処理方法であると思います。現状を正確に把握することによって、適正な経営判断が可能になると思われまます。他の自治体の例を見ますと、熊本市、鹿児島市が昭和63年度以降、引当金を計上する方法を採用しております。本市の引当金に対する処理方法について見解を伺います。また、これから数年間で退職者数のピークを迎えますが、ピーク時までの退職者数と退職給与支給金額の合計額、そしてその対応策について伺いま

す。

◎引野憲治 建設局長 登戸ポンプ場についてのご質問でございますが、補償等につきましては、現在のところ、原因の究明に全力を注いでいるところでございます。また、今後の対策についてでございますが、登戸ポンプ場は、雨天時において自動で運転する施設でございますが、設備の点検整備及び制御システムの強化に努めるとともに、今回のような局地的な大雨に対応できる緊急時の体制について、現在、検討しているところでございます。以上でございます。

◎飯田嘉雄 交通局長 退職給与金の会計処理についての再度のご質問でございますが、退職給与引当金につきましては、民間企業に適用されている企業会計原則に規定されておりますが、地方公営企業法には明確に規定されておられません。このため、引当金の計上は各事業者の裁量によるものとされている状況でございます。

次に、ピーク時までの退職者数と退職給与金支給額についてでございますが、平成11年度から平成15年までの退職者の数は222名が見込まれます。この退職給与金支給総額はおよそ61億円になるものと思われまます。

次に、対応策でございますが、繰延勘定の償却が終了いたしました後は退職給与引当金を計上し、将来に備えてまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。以上でございます。

◆青山圭一 委員 それぞれご答弁ありがとうございました。

それでは、意見要望を述べさせていただきます。まず、建設局長でございますが、設備の点検、整備及び行政システムの強化に努めるとともに、今回のような局地的な大雨に対応できる緊急時の体制について現在検討しているとのことですので、しっかりとした体制を早急にとっていただくとともに、本市として被害に遭われた方々にできる限り納得のいく対応をされますよう強く要望をさせていただきます。

交通局長についてでございますが、退職給与金の会計処理については、ただいまの答弁により、平成15年度までは繰延勘定に計上し、償却が終了した後、引当金処理をしていくと解釈をいたしましたので、より適正な会計処理がされるよう見守ってまいりたいと存じます。

しかしながら、ここ5年間の退職金支給額の合計額は何と約61億円にも上る、こういうことであります。1年間の平均額は約12億2,000万円と大変に大きな負担になります。平成11年度の純損失は約1億3,000万円であり、当年度未処理欠損金は約3,600万円、貸借対照表の現金預金の額は約23億8,000万円であります。現状として、年々バス乗客数が減少していることを考えますと、事態は非常に深刻であると思えます。現在の経営状況を正確に把握するために、適正な会計処理が必要不可欠になりますが、より一層効率的な事業運営を展開されるよう要望いたしまして、私の質問を終わります。